

つきたい力

取組みの概要・ポイント

自分の考えを伝え合う力

・児童の「自分の考えを伝え合う力」を育てるために、国語の「話すこと・聞くこと」の研究に取り組む。全校で統一した「話し方・聞き方」の掲示物を活用し、系統的に力をつけていく。また全学年の研究授業を「話す・聞く」領域で行い、評価についても研究を進めていく。

具体的な取組み（1）

系統的な指導で「話す・聞く」力をつける

① 掲示物の活用...学習指導要領をもとに低・中・高学年の「話し方・聞き方のステップ」を作成し、全学級に掲示。教員も児童も意識して活用することで系統的に「話す・聞く」力をつける。

ポイント：掲示して終わりにならないように授業やふりかえりなどで自分のレベルを確認し、目標を持って取り組む。

聞き方のステップ		話し方のステップ	
レベル0	声を出さない	レベル0	あられてから話す
レベル1	手をどめて、話す人を見る	レベル1	立って聞く声で話す
レベル2	姿勢を直す	レベル2	聞く人を見る
レベル3	集中して最後まで聞く	レベル3	聞きやすい速さで話す
レベル4	反応する（なるほど、うなづくなど）	レベル4	さいごまではっきり話す
レベル5	発言をもう一度復習する	レベル5	しんみんを考慮して話す（まず、次に、さいごに）
レベル6	相手が伝えたいことを考えて聞く	レベル6	友だちの考えにつけて話す（～さんの意見に～）
レベル7	聞いたことをメモしたり、質問したりできる	レベル7	考えを言ってから理由を話す（～です、理由は～）
レベル8	聞いたことに対して自分の考えを持つ	レベル8	いいをしめて話す（たとえば～）
レベル9	自分の考えと相手の考えを出べて聞く		

	低学年	中学年	高学年
話題の設定	身近なことを話題とし、目的や意図に応じて、日常生活から話題を決める。	目的や意図に応じて、日常生活から話題を決める。	目的や意図に応じて、日常生活から話題を決める。
情報の収集	ふたごなどから話題を決める。	集めた材料を出題・分題し、伝え合うことを意識する。	集めた材料を出題・分題し、伝え合う内容を検討する。
話し	構造的に話す。話し手や聞き手や目的を意識する。	理由や意図を挙げる。話し手や聞き手や目的を意識する。	意図や意図に応じて、話し手や聞き手や目的を意識する。
話す	表現、内容	話し手や聞き手や目的を意識する。	話し手や聞き手や目的を意識する。
聞く	構造的に聞く。話し手や聞き手や目的を意識する。	話し手や聞き手や目的を意識する。	話し手や聞き手や目的を意識する。
話し合う	話し手や聞き手や目的を意識する。	話し手や聞き手や目的を意識する。	話し手や聞き手や目的を意識する。

ポイント：話し方・聞き方のステップともリンクさせて系統性をわかりやすくした。

「話し方・聞き方ステップ表」「話す・聞く」系統表については
こちら



② 系統表の作成

低・中・高学年の指導目標を「話す・聞く」系統表にシンプルにまとめ、目標をすぐに確認できるようにし、系統的な指導ができるようにした。



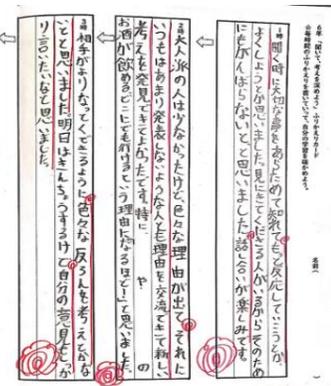
具体的な取組み（2）

「話すこと・聞くこと」の力を評価するための工夫

① ふりかえりのポートフォリオ化
「話すこと・聞くこと」を評価するためにはふりかえりが大切になる。単元のふりかえりを一覧にできるようにポートフォリオにし、児童が自分の学びの足跡がわかるように取り組んだ。また、教員からの3観点の評価が難しいという意見から、教員が部会でノートを持ち寄り、どう評価したかについて交流を行った。

② 評価のためのICT活用
(カメラ機能による録画・「ジャムボード」授業支援ツールなど)

ICTを活用して評価に生かすようにした。例えば、タブレットで話し合いを録画したり、「ジャムボード」を使って話し合いの内容を残したりして、評価に生かした。



ポイント：カメラで録画した動画は観点をしばって見るようにし、評価に生かすやすく、負担が少ないようにした！

取組みを通しての子どもの変容

- ・「話す・聞く」の研究を進める中で、授業で「友達の話聞く」意識が高まった。1学期と2学期のアンケート数値(肯定的割合)を比較すると、上昇が見られた。
- ・「国語の授業が好きだ」(76.6%→77.8%)「話のつながりを意識し、大事なことを考えて、読んだり聞いたりしている」(85.1%→86.3%)
- ・「自分の考えを伝えるとき、相手や目的などを意識して、伝え方を工夫している」(82.6%→83.7%)
- ・グループ活動で、児童が主体となって話し合いを進める姿が見られるようになった。
- ・グループや全体の話し合いの場面で、ICTの活用機会が増えた。使い始めると堪能な児童も多く、授業支援ソフト「ジャムボード」を書くなど新しい使い方を発見する児童もいた。